

# 日展ニュース

No. 181

<https://www.nitten.or.jp/>

令和4年7月7日発行

編集兼発行人 神戸峰男

## 第86回 定時総会



雨もよい 海野建夫



## 日展理事長退任に際して

奥 田 小 由 女



改組 新 第一回日展から第八回日展まで四期・八年間日展理事長を務めさせて頂き、此の度、退任致す事になりました。日展改革期の試練の多いなか、日展五科の皆様が、一丸となつて支えて下さり、日展を守ろうという力を与えていただき、事態を乗り切る事が出来ました事に、日展作家の皆様から感謝と御礼を申し上げる次第でございます。

次の時代の日展は、宮田新理事長のもと、新体制で明るく輝いてゆく事を確信して、日展の更なる発展を祈念致します。

## 日展理事長に就任して

宮 田 亮 平



四期八年の大改革を成し得た奥田理事長のあと、この度、図らずも理事会におきまして、歴史ある日本の文化芸術を牽引されてきました日展の理事長を仰せつかりました。大変緊張いたしております。身に余る大役ですが、微力ながら先輩諸氏の数々のご業績の上に築き上げられましたこの素晴らしい日展の益々の発展のため、全力を尽くしてまいりたく存じます。なにとぞ皆様の御支援御指導を賜りたく心からお願ひ申し上げます。

## 日展副理事長・事務局長に就任して

神 戸 峰 男



この度、副理事長の再任に加え、新たに事務局長の重責を拝命いたしました。土屋禮一前事務局長の後任として、その責務の重要性を痛感いたしております。一世紀に渡る日展の歴史の中で、今程その組織の在りようが問われている時はありません。各々の作家が各々の自覚の下、美への確信と自信を持ち、創作に挑まれることを願って止みません。日展作家の結集が、大きな力と成り得ることを信じております。今後とも、皆様のご支援をお願い申し上げます。

## 日展副理事長に就任して

土 屋 禮 一



奥田理事長の下で八年にわたり事務局長と云う重責を、微力ながら皆様方のご協力のおかげで終えることが出来ました。心より感謝と共に御礼を申し上げます。つづいて副理事長の一人としての大任を仰せつかり、改めて精進努力を自らに云いかせております。これからも皆様の御支援をよろしくお願い申し上げます。

## 日展副理事長に就任して

佐 藤 哲



日展改革を推し進めて厳しい状況を乗り切つて下さった奥田理事長の後を受け、宮田新理事長を始めとする新体制で必ずや日展は発展していくものと信じています。その為には会員の皆様の声を聞かねばなりません。私達は作家集団です。作品の向上を目指してがんばりましょう。

## 日展副理事長に就任して

黒 田 賢 一



この度、副理事長を再度仰せつかりました。日展は奥田前理事長の強いリーダーシップにより、厳しい改革の時期を経て、大いなる信頼を取り戻すことができたと思っています。これからは宮田新理事長のもと、未来を見据え、さらなる発展をめざして、少しでもお役に立てるよう力を尽くす所存です。皆様のご理解とより一層のご支援をお願い申し上げます。

# 第86回定時総会報告

日時 令和四年五月三十一日

午後二時

場所 上野精養軒 桜の間

出席 四〇一名（含議決権行使書）

奥田理事長が議長となり、左記の事項について報告、説明し承認可決した。

- (一) 令和三年度事業報告承認について
- (二) 令和三年度決算承認について
- (三) 令和四年度事業計画書報告について
- (四) 令和四年度収支予算書等報告について
- (五) 会員人事報告について
- (六) 選定顧問報告について
- (七) 理事・監事の改選承認について

その他の報告事項

- 1 日展規則の一部変更報告について
- 2 令和四年度称号授与予定者報告について
- 3 第八回日展巡回展開催報告について他

なお、総会終了後別室において開催された理事会において理事長・副理事長を選定した。

役員・会員新人事

令和四年五月三十一日付

新顧問

工芸美術

奥田小由女

書

井茂 圭洞

理事

理事長

宮田 亮平

副理事長

神戸 峰男

事務局長

土屋 禮一

副理事長

佐藤 哲

副理事長

黒田 賢一

監事

（◎は理事長 ◇は副理事長）

日本画

◇土屋 禮一 福田 千恵

洋画

村居 正之 山崎 隆夫

書

渡辺 信喜

彫刻

小灘 一紀 ◇佐藤 哲

工芸美術

斎藤 秀夫 町田 博文

新会員

湯山 俊久

新会員  
令和四年三月二十四日開催の理事会において、左記二十二名が選出された。  
令和四年四月一日付

令和四年四月一日付

日本画

岡本 明久 佐藤和歌子

谷川 将樹 寺島 節朗

林 秀樹

洋画

一の瀬 洋

彫刻

清島 浩徳 鈴木紹陶武

鈴木 徹男 中口 一也

工芸美術

十二町 薫 谷口 勇三

南 正剛 向井 弘子

向山伊保江

書

石坂 雅彦 倉橋 奇艸

澤田 虚遊 寺坂 昌三

歳森 芳樹 森上 光月

吉澤 石琥

新準会員

令和四年三月二十四日開催の理事会において、左記一八名が選出された。

令和四年四月一日付

第一科 日本画（四名）

谷野 剛史 辻野 宗一  
宮原 剛 行近壯之助

第二科 洋画（三名）

池上わかな 吉川 和典  
本田 年男

第三科 彫刻（四名）

秋田 美鈴 近藤 哲夫  
重政 信明 丹羽 俊揮

第四科 工芸美術（二名）

繁昌 孝二 山口 和子

第五科 書（五名）

川合 玄鳳 長井 素軒  
中村 史朗 藤川 翠香  
山内 香鶴

新会友

令和四年三月二十四日開催の理事会において、左記一二名が選出された。

令和四年四月一日付

第一科 日本画（五名）

青野 圭花 小熊香奈子  
大野 忠司 榎原孔美子  
白川奈央子

第二科 洋画（二十八名）

五十嵐拓也 伊藤 隆  
有働 孝昭 上品 博保  
小田 昇 大野 一秀  
大橋 良子 大森まさ代  
大山 富夫 沖津 達也  
沖村 徳恵 海部 洋  
菊池 一雄 久保 尚子  
近藤 克子 近藤 憲男  
田中 知子 仲原 正博  
馬場 和男 長谷川よし美  
政木久美子 松島 良一  
宮下 陽子 宮本 佳子  
山根 隆 山本容梓子  
吉田 直未 渡邊 正博

第三科 彫刻（六名）

谷本伊都子 西沢明比呂  
細川 忠夫 町野 紗恭  
最上 健 山川 芳洋

第四科 工芸美術（二十五名）

赤染 恒子 秋永 尚子  
井上絵美子 伊藤 典子  
今林 久 岡崎まりこ  
加藤 栄美 北島 直美  
小谷内和央 佐藤 敦子  
高原 茂嘉 竹村 岳  
土橋 恵 中村 茂子  
西田 亮榮 野村 拓功  
橋村 一彦 平野 英史  
平野由美子 藤田 晃一  
松本由紀子 政所 新二  
室井聖太郎 森本 强  
山本 啓二

第五科 書（四十八名）

青木 聴雪 秋山 繭子  
浅井佐茅子 新井 崇子  
井上 広登 井森 敏美  
家田 馨子 石田 廣子  
板倉 由枝 今井 藍雪  
今居 青桃 上野佐登美  
上原 松泉 植林 山華  
内村 明幹 金子 轍史  
鎌倉 雅代 北村 鐘石  
小林 和香 佐藤 帶雪  
佐藤 美風 阪野 鑑  
目 純子 清水 まみ  
嶋田 白染 鈴木 宗美  
多田 佳秀 高間 明子

竹山 昶伯 時崎 伍鳳  
富永 蘇泉 中村裕美子  
永田 一晴 滑田 耀齋  
西野 香葉 西山 恵子  
浜川 廣園 坂東 恵風  
廣田 玲子 本間 翠眉  
松尾 美舟 松本純美代  
三浦 映泉 森上 象玉  
山上 庸子 山火 葉舟  
山本 景苑 依田希代子





# 日展

## 第9回 日本美術展覧会 公募

日本画 Japanese Style Painting	洋画 Western Style Painting	彫刻 Sculpture	工芸美術 Craft or Art	書 Sho
個人展入賞 10月20日(土) 21日(日) 団体展入賞 10月21日(日)	個人展入賞 10月14日(土) 15日(日) 団体展入賞 10月16日(日)	個人展入賞 10月22日(土) 23日(日) 団体展入賞 10月23日(日)	個人展入賞 10月14日(土) 15日(日) 団体展入賞 10月16日(日)	個人展入賞 10月11日(土) 12日(日) 団体展入賞 10月11日(土) 12日(日)

第9回 日本美術展覧会 2022年 11月4日(金) ~ 27日(日) 火曜日休館 国立新美術館  
 The Japan Fine Arts Exhibition

日本画、洋画、彫刻、工芸美術 ※団体・協賛美術展覧会 地下1階 作品展示場 日本画、洋画、彫刻、工芸美術 ※団体・協賛美術展覧会 地下1階 作品展示場 日本画、洋画、彫刻、工芸美術 ※団体・協賛美術展覧会 地下1階 作品展示場



**第9回 日本美術展覧会**  
**会場** 国立新美術館  
 東京都港区六本木7-22-2  
**会期** 令和4年11月4日(金) ~ 11月27日(日)  
 休館日 毎週火曜日  
**観覧時間** 午前10時 ~ 午後6時 (入場は午後5時30分まで)  
**主催** 公益社団法人 日展

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、入場制限を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。  
 最新の開催情報は「日展ウェブサイト」<https://nitten.or.jp/> (びゅう) 確認下さい。

本年度の開催要綱が出来上がりました。  
 ご応募の流れ

応募に必要な  
 資料の請求  
 (切手を郵送)

日展事務局より  
 開催要綱・出品  
 申込書等を郵送

作品の搬入

封筒に左記のものを同封の上、日展事務局宛にご郵送ください。

・部数に応じた送料分の切手  
 ・必要部数、送付先の住所、氏名を明記した紙

(送付先)

〒110-0002 東京都台東区上野桜木2-4-1「日展事務局 出品申込書係」宛

送料…1部 2部 140円、3部 210円、4部 250円

6部以上ご希望の方は事務局までお問合せください。TEL 03(3821)0453

※返信用封筒は不要です。

※速達をご希望の方は、速達希望と明記の上

送料+速達料金(260円)の切手をあわせてお送りください。

切手が事務局に到着次第、左記の書類を郵送いたします。

・開催要綱

・出品申込書

・鑑査結果通知用の封筒

【個人搬入の方】

各部門で決められた搬入日および搬入場所(開催要綱参照)に、  
 出品申込書・鑑査結果通知用の封筒・出品手数料(12,000円)  
 を添えて、作品を搬入してください。

【搬入業者をご利用の方】

各搬入業者の所定の手続きにしたがい、作品の搬入を依頼してく  
 ださい。業者ごとに締切期日等が異なる場合がありますので、詳  
 細は直接各社にお問い合わせください。(宅配便での受付はしていません。)

日展会員、準会員、会友の方々の出品票発送予定

○会員、準会員、前年度特選受賞者…9月初旬頃

○会友…8月中旬から下旬頃





《黄金比》 岡本明久

初入選から46年目、審査員を拝命致し緊張の中、諸先輩より受け継がれた責任ある立場を自負し、務めさせていただきました。新たな出発と自覚して、日本画の健全な発展を願いつつ日々の精進を重ねて参ります。

日本画 岡本明久



《森羅》 佐藤和歌子

この度日展会員にご承認頂きました事、初心に返り身の引き締まる思いを強く感じております。

これまでと同様、弛みなく自然と対話し、作品に真摯に向き合う姿勢を崩さず、制作に取り組んで参ります。

日本画 佐藤和歌子

ご挨拶申し上げます

新会員より



《去る時》 谷川将樹

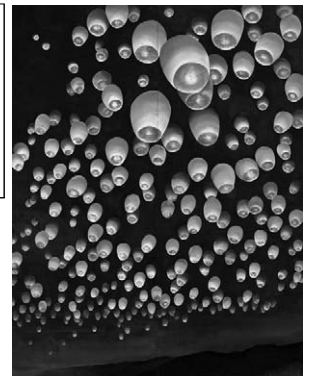
今春から会員として歩ませていただける事に感謝申し上げます。2006年の初入選から出品を重ねて参りましたが、挑戦の心持ちに変わりありません。

立場は変わりましたが、今までどおりの姿勢で画業に勤しみ、自己の表現を深掘りしていきたいと思ひます。

日本画 谷川将樹

この度日展会員へ推挙頂き感謝しております。ただ、一步一步歩んでまいりました。これからも、自分の中にある思いに対して、努力してまいりたいと思ひます。

日本画 寺島節朗



《願う》 寺島節朗



《水域》 林 秀樹

会員となっても変わらないことは、対象と画面とに対峙し、自分の絵画を追求すること。会員となっても変わらなければならないことは、その自分に対し様々な面により厳しくならなくてはいけないことだと思ひます。

日本画 林 秀樹

作品図版  
第8回日展出品作  
2021（令和3年）



《Ballad of Mononofu》  
清島浩徳

この度、長い歴史ある日展の会員を拝命いたしましたことを、諸先生方々、関係の皆様へ心より感謝申し上げます。日展会員の名に恥じぬよう今後とも常に新しい試みに挑戦しながら精進してまいりたいと思ひます。

彫刻 清島浩徳

日本の歴史が生み出した美しさや、その思いを基本とし、大自然から学んで、自己啓発を致し制作研究に打ち込んで参ります。

洋画 一の瀬 洋



《御嶽の麓》 一の瀬 洋



《コアラのひるね》  
鈴木紹陶武

幼い頃より憧れていた日展。会員にご推挙頂き作家としての節目を迎えたことに歓びと共に責任を感じております。彫刻を通して何を表現したいのか、何が表現できるのか、より一層研鑽を積んでまいります。

彫刻 鈴木紹陶武



《夢想》 鈴木徹男

この度は、日展会員の委嘱を賜り有難く感謝申し上げます。会員としての自覚と品格を保ち、その一員としてお役に立てますよう尽力する所存です。

彫刻 鈴木徹男



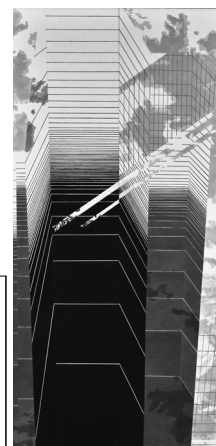
《思流》 中口一也

この度は、日展会員に承認して頂き身の引きしまる思いです。初入選から41年が過ぎましたが、初心に帰り作品制作に取り組んでいきたいと思ひます。

彫刻 中口一也

この度、会員となり大きな喜びと共に責任の重大さを痛感しております。鑑査結果通知が届くたび、気に病んでいた事が昨日の事のように思い出されます。今後も作品に想いを込め真摯に向き合って参りたいと思っております。

工芸美術 十二町 薫



《雲外蒼天》  
十二町 薫

栄誉ある日展会員にご承認いただきまして感謝を申し上げます。  
美術を志し40年余が過ぎましたが、初心を忘れず、制作に慈しみをもって精進して参りたいと存じます。

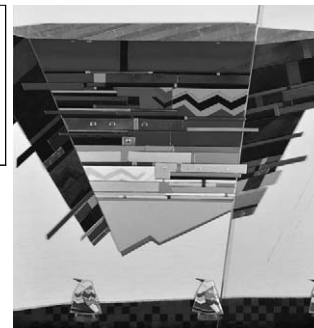
工芸美術 向山伊保江



《臨界譜》 谷口勇三

凡才という才能が、私に創作を、ここまで続けさせてくれました。(凡才に感謝) 感謝のしるしを、この節目に、新たな創作への意気込みに換え、ブレない歩みを続けて行く気概であります。(さあ、これからが本番)

工芸美術 谷口勇三



《浮・此の先にあるもの》  
向山伊保江



《氷裂2021》 南 正剛

この十数年、海外取材にテーマを求め、異なる自然、風土、歴史、文化からエネルギーを得てきました。同様に長いスパンで『日展』を捉え、先達の先生方の仕事を自らの範とし、一日一日、制作に励んでいきたいと思ひます。

工芸美術 向井弘子



《アナトリアの風》 向井弘子

今ある自分を育て、導いてくれた「日展」そして「恩師」に、心よりの感謝の念を抱き、これからも創作活動に精進してまいります。

また、創作の苦しみや不安を乗り越えた時に得られる「達成感や喜び」を次代を担う人々と共有、協力して明日の日展のためになれたら幸いと考えております。

工芸美術 南 正剛

この度会員を拝命し、光栄に思っております。会員の第一の責務は作品制作。伝統に則りながらも現代性溢れる生き生きとした魅力ある書を目指し、日展のお役に立ちたいと思っております。

書 石坂雅彦



《杜甫詩》 石坂雅彦



《春の月》 森上光月

この度、伝統ある日展の会員に加えて頂く事となり、大変光栄に思うと同時に、重圧を感じています。これまでご指導頂いた恩師、支えてもらった家族や仲間感謝しつつ、更なる精進をしていく所存でございます。

書 森上光月



《真機》 澤田虚遊

まず写実的な臨書を書く。特に骨格重視で、次に自分らしさも加味した臨書を試みる。臨書の方法を種々工夫することで、作品がどう変化してゆくかを試したい。それには日々の研鑽が不可欠と思っています。

書 澤田虚遊



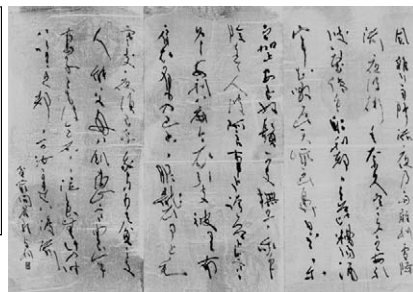
《山行雑詠》  
古澤石琥

責任ある立場として身の引き締まる思いです。諸先生方が作り上げて来た日展の伝統を損なわぬように挑戦する気持ちを忘れず、一步一步前進し、一会員として自己を高めてまいりたいと思います。

書 古澤石琥

25歳の時から、一年の総決算として出品を続けてきた日展。その日展においてこの度、会員という重責を拝命し、肅然たる思いです。果てのないこの道ですが、一層の精進を重ねて行こうと思ひも新たにしております。

書 倉橋奇艸



《貧窮問答歌 一》 倉橋奇艸

師匠や先輩方が導き示して下さり今日があることに深く感謝しております。日展を通じて、書の文化の継承と発展に少しでも貢献するべく精進を重ねてまいります。

書 歳森芳樹



《王文治詩》 歳森芳樹



《雪・梅・桜》 寺坂昌三

この度は日展会員という栄誉を賜り感謝申し上げます。大学で書道コースの教員をしていますので、若い世代の育成に努めたいと思います。書作家としては、淡々と古筆を基盤とした学びを深めていきたいと考えています。

書 寺坂昌三



「夏休み一日ART体験」

第18回『Oneday Art』

制作の体験だけじゃない、「作家」を、「展覧会」を体験できる『Oneday Art』。18年目の今年も挑戦は続きます。日展作家が丁寧に指導します。

(保護者の皆様へ)

「作品をつくる」体験をし、作品や作家とのかかわりを通して、多様な世界観を学んでほしい。日展の芸術文化普及活動です。

主催

公益社団法人 日展

開催日程

7月23日(土)工芸美術(陶)  
7月24日(日)彫刻  
7月26日(火)洋画  
7月31日(日)日本画  
8月6日(土)書

※時間は各回で異なります。

☆作品展は、新型コロナウィルス感染症対策のため、公式ホームページで行います。

場所

日展会館  
東京都台東区上野桜木2-4-1

参加者募集!

参加費(※教材費等)

1名 二、五〇〇円

指導作家・内容

※詳細はHPでご覧になれます

応募方法

★ハガキ、FAX、メールで、

住所・氏名・電話番号・学年・希望日(必ず第2希望まで)を明記。

★子供が2名以上で参加希望の場合は、参加者全員の住所・氏名・電話番号・学年・希望日を記入

★保護者が実技参加を希望される場合は、参加の有無と氏名を必ず記入して下さい。

※締め切り7月15日(必着)

定員 各回 40名程度  
※見学の大人は人数に含まない



(昨年の様子)

賛助会員制度『日展パートナーズ』

(掲載希望者のみ 令和4年6月6日現在)

●個人

青木晃子様	東 晋一郎様
新井演子様	飯田真未様
石崎國夫様	井谷善恵様
井上道守様	今田功一様
今村忠司様	岩田 薫様
奥田節子様	角井 博様
梶山純子様	金子美和様
兼重勇希様	岸野 田様
栗原直子様	呉 祐輔様
黒田浩平様	児玉安司様
近藤慎男様	坂本美賀子様
佐川かおる様	佐藤大悟様
澤田優也様	島谷弘幸様
鈴木千壽様	高木寛史様
田頭明子様	田頭益美様
高橋千笑様	竹尾明子様
竹本葉子様	土橋正彦様
土屋礼央様	寺岡宏高様
中谷幸司様	中原有三様
西田俊通様	西村潤帰様
西村友子様	野田裕一様
藤田理恵子様	藤本真之様
堀 稲子様	宮島幸男様
宮原和朗様	村里 暁様
森寫順子様	

●法人・団体

株式会社 IDホールディングス様	株式会社 靖雅堂夏目美術店様
医療法人社団 永寿会様	公益社団法人 創玄書道会様
株式会社 大垣共立銀行様	株式会社 高山草月堂様
株式会社 玉蘭堂様	株式会社 筑波銀行様
謙慎書道会様	T&Tパートナーズ法律事務所様
ゴールデン文具 株式会社様	東洋額装 株式会社様
株式会社 靖雅堂夏目美術店様	公益社団法人 日本書芸院様
公益社団法人 創玄書道会様	一般財団法人 ビオトピア財団様
株式会社 高山草月堂様	福井素鳳堂様
株式会社 筑波銀行様	株式会社 便利堂様
東洋額装 株式会社様	有限会社 丸栄堂様
公益社団法人 日本書芸院様	有限会社 みなせ筆本舗様
一般財団法人 ビオトピア財団様	株式会社 ミライト・テクノロジーズ様
福井素鳳堂様	一般財団法人 桃園学園様
株式会社 便利堂様	株式会社 谷中田美術様
有限会社 丸栄堂様	株式会社 湯山春峰堂様
有限会社 みなせ筆本舗様	株式会社 リンクス様
株式会社 ミライト・テクノロジーズ様	株式会社 和光様
一般財団法人 桃園学園様	
株式会社 谷中田美術様	
株式会社 湯山春峰堂様	
株式会社 リンクス様	
株式会社 和光様	

## 学びと制作

(書) 森 上 洋 光



徳島県で漢字書道の作品制作に傾注しています。

歴史を越えて伝わる文字史料や名筆に触れる取り組みは滋味深く、復習すれば生じる新たな課題に学びの醍醐味を感じます。技術はもちろん、ことばとともに時代や考え方も表れていて、その解釈の仕方にも様々な経験が必要だと考えています。

雄大な吉野川の流れと水面を渡る風、生物の営みに季節の移ろいを感じながら、心身のバランスにも配慮しています。刻々と変化する社会の中で、学びと制作の循環から整理と調和を図り、いかに説得力ある表現につなげられるか。高い目標を掲げ、今の自分にできる「無垢なる表出」を重視することで、普遍性も加えたいと願っています。

このような思いが集まる日展に出品できることは喜びであり、作品から制作のバックボーンをうかがう貴重な機会でもあります。私にとって、学びと制作に生きる毎日を後押しする励みとなっています。

(徳島県在住)

## 私と日展

(洋画) 半 田 豊 和

私は富山県に在住し、仕事をしながら日展に出品しています。

毎年絵の構想から始めて、半年の時間をかけ、一筆一筆を積み上げてタブローを完成させるのは、さながら建築のような楽しみと難しさがあります。そして搬入後はまるで合格を待つ受験生のような気持ちとなるのです。かくして一〇〇号の画面を制作し、出品して評価を受け、展示される(展示されないこともあります)という一連の事は私にとって自己実現の手段となります。

深夜に、一人自分の作品の前にたたずんで描きかけの自作と対話していると、ダヴィンチやレンブラントのような古の巨匠が優しく微笑みかけてくれるような心持ちになることがあります。ラスコーの洞窟画を制作した古代の人々にまでつながる人間の「絵を愛する心」と連なる幸福な時間です。

刺激の少ない地方都市から日展に出品し続けるのは、時に困難なこともあります。自分の描く作品からエネルギーをもらって、作品を作り続けることができるように感じています。

(富山県在住)

## 各地からの



地元の人々とともに  
遠く離れた友人たちとともに

(彫刻) 灰 塚 みゆき

私の住む福岡県小郡市は、田んぼと畑に囲まれたのどかなところ。実家の車庫で制作をしています。道路に面しているので、シャッターを開けて制作していると、近所の方が話しかけてくださることがあります。

穏やかな表情で、いつも植物を山のように抱えて散歩をしているお姉さんは、染織の勉強中だそうです。毎回全身真っ赤な服でコーディネートしているおじさんは、仏師だったおじいさんの話をしてくれます。自ら脚立に登って柿の木を剪定するパワフルな七十歳を過ぎたおばあさんは日本画家です。

## 山陰の自然と少年たちを描いて

(日本画) 岸 本章

昭和五十七年、十年振りに東京から帰った私に、山陰の美しい自然と暮らしは新鮮な感動を与えてくれました。

四季折々に、さまざまな表情を見せてくれる大山。出雲に伝わる国引き神話の舞台となった雄大な隠岐の風景。生活の匂いあふれた網代港。急な斜面に建つ夏泊などの漁村。ユーモラスな顔のオコゼなどの魚。そして生き生きとした子供たち。夢中になって描き続けて、年月が経ちました。

その中で、「因幡の白兔」に出てくる鯨の漁が、島根の港で始まったと聞き、取材に行きました。岸壁では水揚げの最中で、フカヒレを採取する作業を、家族で協力して行っていました。その傍で幼い子供達が、無邪気に遊んでいた光景が印象的でした。その後、船に乗せて貰い、納得するまで写生をさせて頂きました。

そして「鯨と少年」をテーマに、連作シリーズとして、日展に出品することが出来ました。

日本海に面し、歴史と文化に恵まれた鳥取・島根の人々に感謝しながら制作を続けたと思います。

(鳥取県在住)



## 出品者の思い

### 風土を生かし、自分の思いを作品に！

(工芸美術) 尾 澤 勇

東京都出身で大学院在学時の第二十一回日展に初入選して以来、鍛金の制作出品を続けてきました。卒業後、美術・工芸の教員として、東京から広島、東京そして秋田に赴任し工芸文化の啓発と美術・工芸の教員養成、人材育成を行っています。日本各地に赴任した経験から、各地の方々が地元の伝統文化の価値に、当たり前すぎて気づけていないのかなと思うことがあります。

日本の工芸文化は、その地域の自然や風土に根ざした素材や技法、題材などに特徴があります。私もそれを生かしたいと思い、モチーフなど、秋田の自然や風土から触発された作品を制作しています。冬の厳しさを乗り越え、花々や草木、山々、風、雲など春の喜びは東北ならではです。四季折々コントラストの強さを感じます。

作品は自分自身で抱えて搬入しています。搬入間近に台風や災害の影響で交通機関の運休を何度か経験するなど、苦労することもあります。これからも風土を生かし、制作していきたいと思います。(秋田県在住)



いろいろな出会いから縁がつながり、一昨年、地元の文化財の建物で個展を開催させていただきました。

十数年前に大学を出て地元に戻った時、制作活動の悩みや喜びを日夜語り合える友達がいないなってしまったことに寂しさを感じました。しかし今は、生まれ育った場所

で、周囲の方々と関わりをもちながら日々制作に励み、遠方の友人と共に日展に挑戦できる生活を嬉しく思っています。

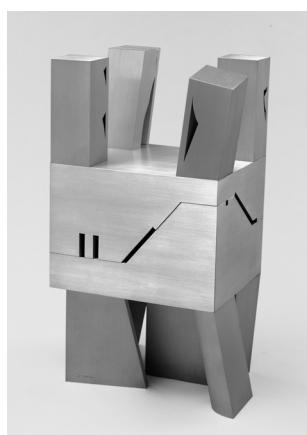
(福岡県在住)







《な・え・ば》（部分） 1982年  
上越新幹線 越後湯沢駅



《風道》  
（平成20年 第40回日展出品作）



《キュービック 宙・華》  
（平成30年 改組 新 第5回日展出品作）



《大地の軸》 2008年 大阪市内

## 原点

第四科工芸美術 理事 春 山 文 典

造形素材として金属との出会いは東京藝術大学工芸科入学後であった。インテリア空間デザイナーや舞台美術家を目指し工芸科を選んだ。当時の同科は三年次よりヴィジュアルデザイン、インダストリアルデザイン、そして鍍金、鍛金、彫金、陶芸、染色、漆芸等各専攻のうちから選択し、進級するシステムであった。自身の志望は前述の通りであり迷いはあったが、まず素材を知りその特性を生かした造形が肝心と考え鍍金専攻へと進級した。この選択や、その後の幾つかの作品制作の機会やきっかけが進む道が変わり、今日まで歩んできたように思われる。

鍍金専攻では伝統的な工芸の考え方や、また今に繋がる加工法による作品制作に理解を示される指導教官がいらした。自身は強く後者の教えに共感し、蓮田修吾郎先生の教室に進級した。先生は二十世紀初頭ワイマール（ドイツ）で起こったバウハウスの思想、美術と建築の統合的な新しい造形教育に共感なさっていた。伝統的な工芸技術を学ぶか、あるいは金属による美術と建築の統合的な考えを持った造形を学ぶかの選択でもあった。

技術が造形発想を喚起し、発想が技術を生み出すのであろうが自身の考えはこの統合的な造形を強く意識するようになり工芸の原点を見い出す感があった。

金属の造形の魅力に取り込まれていった大学院修了の頃には恩師から強く日展や現代工芸展への出品を勧められたが、当初はなかなか公募展出品に決心がつかなかった。しかしそこは真に研究の場であり、先輩、後輩そして仲間の意見や講評の大切さに気付かされていった。併せて恩師が主宰するドイツ人作家との交流の場である金属造型展に約三〇年間に渡り関わりを持たせていただき多くのことを学んだ。その影響が展覧会出品だけでなく、実際空間へのモニュメンタルな作品制作の機会も得て来た。自身の歩みを見た時、それぞれの表現の場は次の制作へとフィードバックされて来たのではないかと思う。このような制作動機の反復運動によって更に表現の深化、そして転換、発展出来たらと思っている。





《麟鳳遊》

(平成28年 改組 新 第3回日展出品作)



《菜根譚の語》(令和2年 改組 新 第7回日展出品作)



《妙法蓮華經・如来神力品第二十一》  
(令和4年 第66回現代書道二十人展出品作)



《蘇東坡詩》  
(平成2年 第22回日展出品作) 特選

## 継続は力なり

第五科書 理事 星 弘道

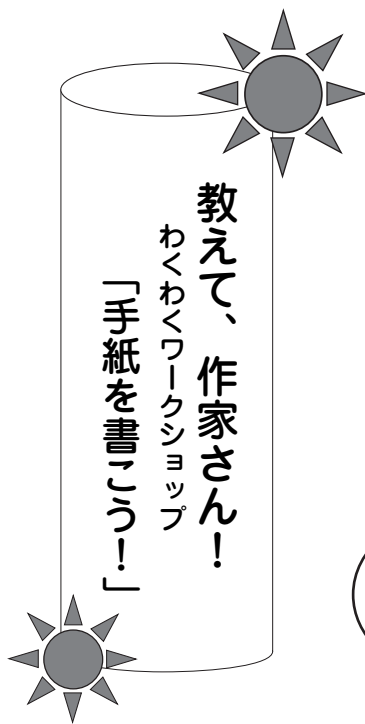
僧侶になってから書を始めただけに、出遅れ状態だった。常に一枚でも多く練習しようと思い書き続けたことがよかったのでしょうか。

丁寧な積み重ねで仕上げていく芸術と違い、書は瞬発力と持続性が要求されるものと思っている。仮名とか書体によっても、多少の違いがあり、その表現の大小はあると思うが、筆と紙の接筆感に心象の世界が加わることは同じである。一瞬一瞬の結果がすぐあらわれてくるのである。故に、満足いくものがなかなかできず苦しむことになる。

しかし反面、技と心象が合致したときに、自分で持っている物以上の結果を生み出すこともある。そこに、作家としての喜びを感じることにになり、どんな深みにはまっていくなこととなる。特に、中国の漢字のもつ造形感が多種彩々で一生かかって、名筆といわれる書にふれ、顕すことは不可能と思うが、自分の相性というものを求め現存する資料を注視して手の中におさめていく繰り返しが大切だと思う。過去の名筆といわれる人たちの皆、このような方法で絞り込んでいったことと思う。この方法でも、決して簡単なことではなく、自分をだすことはそんなに甘いものではない。だれだれの書のおいぐらいのところで、精一杯なのかもしれない。

書の難しさは、計り知れないものがあるが、しかし、己は一人しかいないので、そこに個性は出せるのではないかと思っている。今、年を重ね自分のこれからの仕事はどうするかと真剣に考えている。なかなか結論は出し得ないがもう一度原点の法帖をしっかりと再確認をしながら進むことが一番大切なのかと考えている。追いかけても追いつくことがないかもしれないが、これが生涯をかけての仕事のようです。

哲学者・詩人のアミエル曰く「藝術作品には、均衡、適度、斉一といった種類の美学的法則が必要である」とあるが書もこの所をはずすとただの媚態になってしまう。古法を重んじこれからは精進したく思っている。



教えて、作家さん！  
わくわくワークショップ  
「手紙を書こう！」

昨年「第8回日展」開催時に、「わくわくワークショップ『手紙を書こう!』」という、小・中・高校生から気に入った作品の感想や質問を集める企画を実施しました。手紙は465通にも及びました。そのため、皆様から好評をいただいておりますこの企画も、前号に続きお届けします。

色使いが鮮やかで絵がはっきりとしている所がとても好きです。引き込まれるような感覚になりました。

私も絵の勉強をしているので、とても参考になりました。ありがとうございました。

侑里奈さん12歳

この作品は群馬と長野の県境あたりを取材したものです。ブナ林のスケッチをするため、小径を歩いていると、眼下に美しい川がありました。足元に注意し、下へ降りてみると、そこにはまるで何か全く違った生き物のような形をした倒木が川縁に横たわり、様々な動植物の棲家として存在していました。その情景はとても美しく、作品にしないではいられない気持ちになりました。絵の勉強をされているのですね。最初に受けた感動を絵で表現できるよう、気持ちを込めて描いて下さい。技術は長く描き続けていれば確実に身に付くので、それよりもむしろ喜怒哀楽などの感情を表現できるようになることが大切です。これからも絵を好きでいてください。

長谷川喜久



流・白く

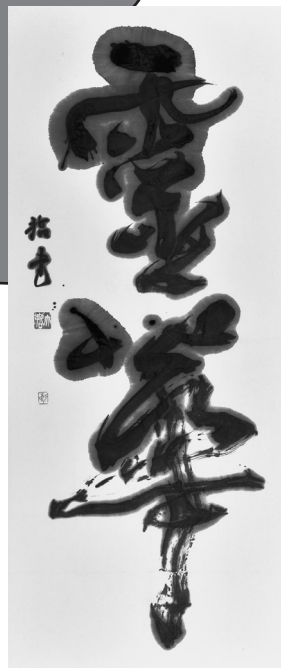
他の人とはちがうような、すみのにじみ出る様子が他の人とはちがうと思い、この作品を選びました。大たんにかけているの  
とすみのかすみをうまく使い、大たんにかけているところがぼくは、気にいりました。すみのにじみに守られているように見えました。また表具紙のあいしょうがとてもよく、げんかんにあると帰って来たときにおちつける作品だと思います。さらに、この作品を作るのに、たくさんの紙を使い苦ろうしたのだと思います。

このむずかしい漢字は、どういう意味ですか。また、なんと読むのですか。なぜこの字（作品）にしようと思ったのですか。

宏太さん10歳

こんにちは。「だいたんに書けている。おちつける作品だ。」と作品の意図を感じ取ってくれて、うれしく思います。作品名は「<sup>いと</sup>靈華」(靈華)、「れいか」と読みます。意味は「ふしぎな花」です。大切な人にすばらしい花をプレゼントしたい。キリリと立ち、静かでおちついた感じで仕上げるために、<sup>うすずみ</sup>薄墨で美しくにじみが出るように書きました。皆さんが使っている黒い墨は「<sup>すずみ</sup>油煙墨」といって、油をもやしてできた煤で、墨を作ります。この作品は、「<sup>しょうえんぼく</sup>松煙墨」といって、松の木や松の根っこをもやしてできた煤で墨を作っています。紙と墨の関係によりますが、上手に使うと、この作品のように美しくにじみます。興味があったら、墨の<sup>けんきゅう</sup>研究をしてみませんか。

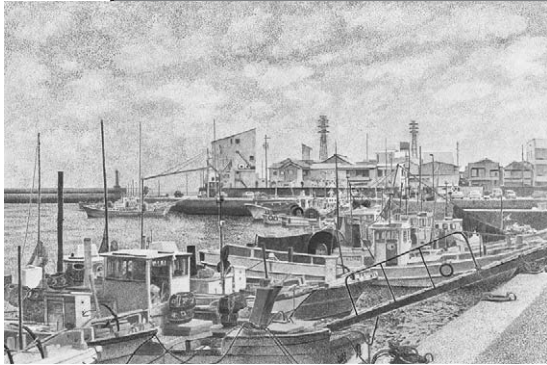
大森 哲



靈華

ピンクをイメージしたような色がとてもきれいでした。そして遠くからみていたときは気づきませんでしたが、近くによるとたくさんの点が一つの作品になっていることに気が付き、びっくりしました。経験が積み重なっているのだろうなと思いました。どの作品もすてきでした。また来年もすてきな作品を楽しみにしています。

智夏さん11歳



海潮音

私は20代の時夜明けの漁港を描いていて、水平線に朝日の光がキラキラ光っていて、点々で表現し良かったのがきっかけで点描画を描くようになりました。観に来ていただきありがとうございます。また観に来てネ。

鈴木順一

オレンジ、赤、青色のまぜ方で、本当に夕日の感じがします。そして、ふつうに毎日見る物に注目すると、ステキだと思います。しかも、太陽の書き方がきれいですね。同じような絵をかき続けて、色々な賞状をもらってください。

安敦さん9歳

私の作品は染色で布地に染めています。そのため、紙に描くよりきれいなグラデーションを作る事が出来ます。また、太陽（月）は箔という金属を薄く伸ばしたシートをはってあります。技法に目を止めてもらい、とても感心しています。カラスは、学校や仕事を終わって、これから家に帰って、おいしいご飯を食べる、私達の小さい幸せを表現しています。毎日元気で幸せでありますように。また日展を見に来てくださいね。

山本恭子



帰途

大きな口をあけていまにも鳴きそうなにわたりの姿に心をうばわれました。ちょうこくを作る人はこの世の天才です。

昊希さん10歳



列島の中で

「大きな口をあけ、いまにも鳴きそうなニワトリの姿に心をうばわれました」という感想、とてもうれしく思いました。みて下さってありがとう。ニワトリから言葉がきこえてきましたか？どのような事、ニワトリが言っていたかな？人間（ヒト）のお家も、ニワトリのケージ（トリ小屋）の中でも？この2年間コロナ禍で自由に行動出来ずザワザワしたり、イライラすることが多くなってきたのではないのでしょうか？1日も早く、楽しくお喋りを気にせず出来たり、お出かけしたりとコロナを気にせずすごすことがしたい…。お家の中ばかりだと飽きちゃいますよね。ニワトリは私自身かもしれません。これからも、ニワトリの形で表現を続けます。是非、観てくださいね。コロナに負けず明るく楽しく一日一日を大切にすごして下さい。それではまた、来年日展であいましょう。

田中厚好

# 第 8 回 日 展 巡 回 展

開催順	開催地	会 期	会 場	開 催 者	入場者数(人)
	東 京	2021年10月29日～11月21日	国 立 新 美 術 館	公益社団法人 日 展	69,201
1	京 都	12月18日～ 2022年 1 月15日	京都市京セラ美術館	日展京都展実行委員会	20,790
2	名古屋	2022年 1 月26日～2月13日	愛知県美術館ギャラリー	中 部 日 展 会	19,501
3	大 阪	2 月26日～3月21日	大 阪 市 立 美 術 館	日展大阪展実行委員会	29,498
4	安曇野	4 月23日～5 月15日	安曇野市豊科近代美術館	安曇野市豊科近代美術館 公益財団法人 安曇野文化財団	13,349
5	金 沢	5 月28日～6 月19日	石 川 県 立 美 術 館	北 國 新 聞 社	14,856

「二〇二二年度高崎市タワー美術館  
企画展 日展の日本画」開催  
日展会館所蔵作品より日本画約60点を展示

会期 令和4年9月17日(土)

～11月13日(日)

主催・会場 高崎市タワー美術館

群馬県高崎市栄町三二二三

電話 027(330)3773

協力 公益社団法人日展

※観覧料等詳細については主催・  
会場にお問合せください。

日展出版物・バックナンバー  
割引販売のご案内

日展図録(5部門・5分冊)

割引価格 各一、〇〇〇円(税込)

日展作品集

割引価格 一、〇〇〇円(税込)

※送料 一冊五〇〇円

※バックナンバーにつきましては、  
在庫が僅少の回もございますの  
で、お問い合わせください。

(問い合わせ先)

〒110-0002 東京都台東区上野桜木2-4-1  
公益社団法人日展事務局 出版物係  
TEL 03(3821)9543  
FAX 03(3823)0453

表紙  
「雨もよい」

一九六九年(昭和四十四年)

改組第一回日展

140×120cm

海野 建夫

(一九〇五～一九八二)

日展史第三十二巻掲載

日本芸術院蔵

文化庁許可済

左の先生方が逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。

安堵 蒼樹先生(巨画・会) 4.2.13

小川 泰彦先生(工芸・会) 4.2.22

木内 禮智先生(彫刻・会) 4.4.11

三塩 清巳先生(洋画・会) 4.4.30

内山 孝先生(洋画・会) 4.5.24

会員・準会員・会友・出品者の皆様

お引越しなどで、住所・電話番  
号等が変わられた際には、日展事  
務局までお知らせください。

## 編集後記

世界情勢不安ではありますが、  
コロナ禍の閉塞感は幾分明るい方  
向へ向かっています。現代に生き  
る芸術はまさに世相とともにあり、  
各地で展覧会が開催されるよう  
になりました。

今号には理事長・副理事長の就  
任・退任のご挨拶、五月末の総会  
報告、そして「作家人生」私の仕事  
として芸術界を牽引してこられた  
お二人の先生の貴重なお話を  
紹介しております。

苦しい状況下におきましても、  
日展は日本における芸術活動の発  
表の場として展覧会の開催を続け  
ています。

毎年新たな作品を制作し続ける  
ため、自らを叱咤激励しているわ  
けですが、お互いに個々の信念を  
尊重し、秋の展覧会にむけて更な  
る意欲をかきたてて参りたいもの  
です。  
(福光)

編集委員 川田 恭子 水野 収  
清水 優 前原 喜好  
堤 直美 野原 昌代  
月岡 裕二 友定 聖雄  
西村 東軒 福光 幽石